

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 英国とEUの通商合意なるか～EU首脳会議

2020年10月12日

EU離脱(ブレグジット)の移行期間の期限を年末に控え、英国とEUとの自由貿易協定(FTA)に関する協議が続いています。手続き上の問題もあり、事実上のデッドラインは10月末といわれていましたが、英国のジョンソン首相は来週15日、16日に行われるEU首脳会議(EUサミット)を期限とし、15日までにまとまらなかった場合は、FTA無しでの離脱、いわゆるハードブレグジットを決断すると先月表明しました。

EU側は15日を期限とするという英首相発言に、交渉に圧力をかけることを意図したものと反発。同期間にこだわらず、10月後半も交渉を継続する姿勢を示しています。交渉の現場サイドでは交渉継続に前向きという報道も出ており、EU側の交渉担当者であるバル二エEU首席交渉官は、今月7日にEU加盟各国の大使に対して、英国が15日で交渉を打ち切るとは見込んでいないという見解を示しました。ただ、ジョンソン首相のこれまでの姿勢を考えると、交渉打ち切りに踏み切ってくる可能性は十分にあるだけに、大きな区切りとしてEU首脳会議が注目されています。

通商協議の進展に関しては、3日に行われたジョンソン首相と、EUのフォンデアライエン欧州委員長の電話協議後の共同声明で、ここ数週間で進展があったとの評価が示されました。ただ、当初から大きな相違点として指摘されている英海域での漁業権問題、国家補助金などを巡る公正な競争環境の確保に関する問題、紛争処理を巡るガバナンスの問題などについては、大きな溝が残っていると指摘されました。

先月までの一部報道ではこれらの問題について英国側で譲歩の用意が見られるというものもありましたが、英国とEUとのトップ協議で依然として溝が深いことが示された形で、交渉がまとまるかどうかは微妙なところとなっています。

かなり重要な問題だけに、期限ぎりぎりまで厳しい交渉が続くのは致し方ないところ。ハードブレグジットは英国、EU双方にとって大きなマイナス。ましてや今は新型コロナウイルスの感染拡大が英国やEUで依然深刻となっており、経済的なダメージも大きい中だけに、ここにハードブレグジットショックが加わると相当厳しい状況が生じるだけに、最後にはまとまるという楽観論が大勢です。ただ、ジョンソン首相の性格やこれまでの姿勢を考えると、強硬な打ち切りを否定することはできないだけに、慎重に状況を見守りたいところです。

FTA交渉が15日までにまとまればポンド買い、ユーロも対ポンドではともかく、対ドルや対円では買いの材料となりそう。もっとも主要なシナリオとなる、ある程度交渉が進展していることを理由に15日以降の交渉継続で合意という形で、現状維持もしくはある程度のポンド買い。ハードブレグジット決定でポンド売りが見込まれるところとなっています。

米国の材料としては15日に予定されている第二回米大統領候補者討論会が注目されています。ただ、第一回の討論会でお互いの非難合戦に終始し、発言を遮るなどの行為が目立ったことや、トランプ大統領が新型コロナウイルスに感染し、一時入院していたことなどを考慮して、主催する大統領候補者討論会委員会(CPD)は8日に、リモート形式で実施すると発表しました。今回の討論会はタウンミーティング方式での開催が予定されていました。両陣営の支持者を集めた形でのタウンミーティングではなく、各々の陣営

が支持者を集めたタウンミーティングを実施、司会者がオンラインで質問するという形式です。

トランプ大統領はこの方式に反対し、討論会に参加しない旨を表明しており、実施は不明確です。バイデン氏はその場合、民主党陣営だけのタウンミーティングを実施するとしています。

両陣営は、その後第2回討論会を最終討論会である22日に延期することを提案しました。トランプ大統領はさらにその後第3回を29日に行うべきと主張も、バイデン陣営はその主張には同調せず、22日を最終回とする(実質的に第2回を中止する)ことを主張しています。

討論会の中止はバイデン氏側に有利という見方が強いことから、今後状況が変化する可能性があります。トランプ大統領は4年前の選挙でも、第二回、第三回の討論会を経て支持を広げてきた経緯があるだけに、どのような判断がなされるかが注目されるところ。

討論会が実施された場合、どちらかに失点が見られ、支持率に変化があるのかがポイントに。バイデン陣営リードを織り込みつつあるだけに、トランプ大統領が巻き返すような状況が見られると株高からの円売りが期待されます。

山岡和雅 | **minkabu PRESS**編集部

1992年チエースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。